

核兵器廃絶への道 ～戦後 80 年、未来へつむぐ～

広島・長崎に米国が原爆を投下して 80 年。
「キノコ雲」の上と下で何が起きたのか。
世代を超えて、未来へつむぐ物語があります。
昨年ノーベル平和賞を受賞した日本被団協の被爆者や、
核兵器禁止条約を進めてきた外交官、研究者、市民らと
ともに、核兵器をなくす道筋を考えます。

2025 **8/2** (土) 13:00～17:00
広島国際会議場 地下2階「ヒマワリ」
広島市中区中島町 1-5 平和記念公園内

13:00～ オープニング

松井 一實・広島市長あいさつ

鈴木 史朗・長崎市長ビデオメッセージ

被爆ピアノ演奏：萩原 麻未（2010 年ジュネーブ国際コンクール優勝）

トーク：「明子さんのピアノ」二口 とみゑ（HOPE プロジェクト代表理事）

司会：桑島 美帆（中国新聞社報道センター文化担当記者）



13:30～ 第 1 部

基調講演：アレクサンダー・クメント（オーストリア外務省軍縮・軍備管理・不拡散局長）

ビデオメッセージ：サーロー 節子（広島被爆者、2017 年ノーベル平和賞授賞式で演説）

パネルディスカッション：「核兵器をなくすために」



和田 征子
長崎被爆者、2024 年
ノーベル平和賞受賞
の日本被団協事務局
次長



宮本 ゆき
米デュポール大教授、
著書「なぜ原爆が悪
ではないのか」



倉光 静都香
米軍備管理協会リサ
ーチアシスタント、広島
女学院高、ミドルベ
リー大学院卒



司会：石合力（朝日新聞社編集委員）

15:00～ 第 2 部

特別トーク：森下 洋子（松山バレエ団理事長、2024 年旭日重光章）

事業紹介：広島ホームテレビ「絵おと芝居～ヒロシマの復興の力」

記者報告：「朝日・中国・長崎新聞合同 被爆 80 年アンケート」

トークセッション：「キノコ雲の上と下から」



原田 小鈴
広島・長崎「二重被爆
者」の山口彊（つとむ）
氏の孫
アリ・ビーザー
広島・長崎原爆両方
の米軍機搭乗員ジェイ
コブ・ビーザー氏の孫



濱住 治郎
広島胎内被爆者、
日本被団協事務局
長



古賀 野々華
米ミシガン州立大学
院進学予定、福岡県
の高校時代に米ハン
フォードに留学



司会：田中 美穂（カクワカ広島共同代表、核兵器をなくす日本キャンペーン広島コーディネーター）

総合司会：渡辺 美佳（広島ホームテレビアナウンサー）

先着 450 人

入場無料

〈事前申込不要〉



Hiroshima

日本初公開！

入場無料
申込不要
FREE ENTRY
NO RSVP
NEEDED



JARA RADIOACTIVE PATRIARCHY

Women of Qazaqstan

上映会 & トークセッション

Film Screening & Talk

2025 **8.2** Sat 9:30 開場
10:00 開演

📍 広島国際会議場「ヒマワリ」
広島市中区中島町1-5

広島市立基町高校 「原爆の絵」の紹介

被爆体験を語る証言者と広島市立基町高校（創造表現コース）の生徒が共同で「原爆の絵」を制作しています。記憶の場面を言葉で伝え、絵にしていく過程で、さまざまな葛藤や苦悩を二人三脚で乗り越えて一枚の絵に仕上げます。



核と
いのち
を考える



主催：広島市、広島平和文化センター、朝日新聞社
後援：広島県、広島ホームテレビ、長崎市、長崎平和推進協会、長崎県、長崎文化放送

『JARA（傷あと）：カザフスタンの女性たち』は、カザフスタンで約40年間にわたり行われたソ連の核実験がもたらした、環境破壊と人々の苦悩という過酷な遺産を描くドキュメンタリーです。本作の監督、エイゲリム・シチェノヴァ氏は、核実験による被曝三世として、2022年に自らの家族が抱える「核の遺産」と向き合う旅を始めました。彼女の自己探求の過程と、核実験の影響が及ぶ地域に暮らす6人の女性たちの証言を通して、映画は放射線被害における性差の問題に迫ります。男性優位の社会が軍事主義や男性性を称賛し、女性の経験が軽視される中、彼女たちは核被害の現実をどのように語るのでしょうか。上映後には、監督らによるトークセッションも予定されています。



エイゲリム
シチェノヴァ氏
Aigerim Seitenova
監督・プロデューサー